

No.663 (改題623号)
2025年
3月26日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

碑

86

物語

魚屋道(ととやみち)とは、灘の浜で捕れた新鮮な魚を有馬温泉に最短距離で運んだ六甲越えの道の呼称で、明治に入ってから使われるようになった。それ以前は「湯山間道」

魚屋道の碑

(神戸市東灘区深江本町)

とか「乃津甲越え」と呼ばれていた。魚の運搬そのものは、江戸時代初期から行われていたようで、当時の絵地図には、現在の国道2号線沿いにある森の朱鳥居から山に入り、蛙石、風吹岩、東お多福山、本庄橋、一軒茶屋、有馬のルートが描かれている。現在のハイキングコースと同じルートで、道のりは約12km。当時でも半日は、有馬の人びとが私財を投じて魚屋道の大修理



江戸時代初期から灘の浜で捕れた魚を有馬温泉に運んでいた道の明治に入ってから呼称で、出発点の東灘区深江本町に立つ

をした記録も残っている。【メモ】碑は魚屋道の出発点とされる神戸市東灘

区深江本町の大日神社境内にある。阪神深江駅から南に3分。(鍋島)

未来を築く働き方と賃上げを
2025兵庫たたかう仲間の集会



集会ではたたかひの歴史をまとめた映像や発言による報告と講演に学んだ=3月8日、中央区文化センター

「未来を築く働き方と賃上げを!」をスローガンに掲げた「2025兵庫たたかう仲間の集会」が3月8日、中央区文化センターで開かれた。集会では3つの労働組合からの闘争報告、全港湾神戸支部本四海峡バス分会の25年の闘いをまとめた映像などの上映とともに「労働組合とは何か」労働組合の過去・現在・そして未来は——と題した講演が行われ、県内の労働組合や地域ユニオンから参加した120人がたたかひに学んだ。

集会実行委員会を代表して片田俊之さん(全港湾神戸支部副委員長)が主催者あいさつを行ったあと、武庫川ユニオンから「三田屋のパワハラと労働組合結成」について、自治労臨職評加東支部から「安上りを助長する会計年度任用職員制度」について、さらに全日建連帯労組関西生コン支部からは「関生支部弾圧の現状」と、3つのたたかひの報告が行われた。2月26日に京都3事件での画期的な無罪判決

を勝ち取ったばかりの関西生コン支部から松村副委員長が「先日の京都地裁での無罪判決で産業界別労組の当たり前の活動が認められた」と支援に敬礼を述べた。

「全港湾本四海峡バス分会25年の闘い」の映像では、海員組合から脱退しての全港湾本四海峡バス分会の結成、契約社員の新社員化のたたかひ、定年延長と60歳からの賃金カット廃止のたたかひなど、どれも本音を出し合って団結を固め、ストライキの実施や闘争態勢の確立でさまざまな要求を実現してきた力強い取り組みが紹介された。「労働組合とは何か——労働組合の過去・現在・そして未来は——」と題した講演は、立命館大学名誉教授の吉田美喜夫さんによって行われた。吉田さんは、今年が英国で刑罰による団結禁止からの解放、つまり労働組合結成の法的容認から200年となると紹介し、世界では今もストライキで要求を実現しているが、関生支部への弾圧はこの歴史や世界の流れに逆行するものだとして強く批判した。また、労基法改悪をめぐるときの「労使自治」の議論が盛んだが、労働組合が追いやられる危険性があると指摘した。さらに、労基法の規制緩和

和や労働組合に代る過半数代表制の設置の議論には強く警鐘を鳴らした。集会後、参加者は元町・大丸前までデモ行進を行い、春闘勝利をアピールした。(菊地)



あきらめずに運動広げる
総会開き今後の活動方針確認

「王子公園市民ミーティング」実行委員会では3月1日、灘区内で総会を開いた。約40人が参加した総会では、小林るみ子実行委員長代表のあいさつの中で、この1年間のさまざまな活動の取り組みをスライドで振り返った。その後、関西学院大学誘致のための都市公園区域の変更処分を取り消しを求めて起こした行政訴訟の状況について、総会に出席できなかった代理人の針原祥次弁護士が文書で報告。第1回口頭弁論で神戸市はまだ都市公園法上の変更処分をしていないことが判明したため、新たに、変更処分は



総会では7つのテーブルごとにワークショップを行い今後の活動の進め方などを話し合った=3月1日、神戸市灘区

水脈

1996年に法制審議会が導入を答申して以来、自民党保守派の強固な反対で店晒しにされてきた「選択的夫婦別姓制度」。与党少数の国会会で、提案審議と早期の成立に期待が寄せられている▼生まれ持った名前を変えずに生きていきたいと考えることは何ひとつ間違っていない。憲法は個人の尊厳と両性の本質的平等を定めている。それを許さなかったのは、民法750条「夫婦は婚姻の際に定めるところに従い、夫または妻の氏を称する」によるものだ▼世論は7割が選択制を認めている。国連女性差別撤廃委員会からは何度も勧告を受けている。しびれを切らした財界も制度導入を求める意見書を出すなど環境は整いつつあるが、「家族の絆」を弱め伝統的な家族制度を破壊することになると、反対の声を強めているのが自民党保守派をはじめとする「家長制」による国民統治の国家体制に固執する勢力である▼明治維新以前の日本の庶民に名字はなく、家族単位で統治するため明治31年、民法が家族制度、夫婦同姓を義務付けた。たかだか120年余の歴史だ。同姓を義務付ける国は世界で日本だけ。私が私であるための姓を強制ではなく、選べる「選択的夫婦別姓制度」を成立させよう。

私の主張

ひとり単位の社会保障制度を 党県本部女性党員・党友交流会



岡崎宏美新社会党委員長から非正規労働者差別への取り組みや選択制夫婦別姓への課題などについて問題提起を受けた＝3月2日、神戸市中央区

新社会党兵庫県本部女性委員会は、3月8日の国際女性デーにちなみ、女性党員・党友交流会を3月2日、神戸市内で開いた。党員でない人も含めて30人が参加。「ひとり単位の権利・社会保障制度を当たり前にしていきたい」と学び合った。

最初に岡崎宏美中央本部委員長から、1970年代からの女性差別撤廃条約批准と男女雇用平等法要求の闘いから現在の非正規労働者差別に対する取り組みや選択制夫婦別姓への課題などの話がいった。夫婦別姓は1898年の民法公布から天皇を頂点とした政治体制を支える「家制度」「夫婦同氏」とされたこと。戦後の新憲法下で民法は改正されたが、「家破れて氏あり」と批判される内容だったこと。高度成長期

も配偶者特別控除などで専業主婦が夫を支える核家族化が「日本型福祉社会構想」と一体で進められたことなどが明らかにされた。税理士の仲間も参加し、年収の壁問題に関係して税金を減らすためにはなく、働いた分の納税と税金の使われ方をきちんと見ていくことが大切だとの提起もあった。高校生への出前授業の中でも、どうすれば得かではなく、正しく納税して税の使い方を点検しモノを言っていく納税者になろうと話しているという。

山口みささ芦屋市議から、選択制夫婦別姓の導入を求める意見書採択の取り組みを通して女性の人格権・人権問題として討論してきたとの報告もあった。制度は政治の力で変えられる。政治は変えられず、地方議会から安全やローカル線などをめぐる諸報告、連帯する労働組合からの闘争報告
◎主催Ⅱノーマル尼崎事故集委員会 09
◎4月12日(土) 14時◎大田市・国労大阪会館 (JR環状線・天満駅から外回りで徒歩5分) ◎資料代800円◎講演「住民の同意なきリニア計画」榎田秀樹さん(シヤリナリスト) ◎JRの長田区文化センター・大

安全やローカル線などをめぐる諸報告、連帯する労働組合からの闘争報告 ◎主催Ⅱノーマル尼崎事故集委員会 09 ◎4月12日(土) 14時◎大田市・国労大阪会館 (JR環状線・天満駅から外回りで徒歩5分) ◎資料代800円◎講演「住民の同意なきリニア計画」榎田秀樹さん(シヤリナリスト) ◎JRの長田区文化センター・大

女性が声をあげていくことが大事だと確認し、7月の参院選でかい正康さんの勝利を勝ち取ることを誓い合った。(小城) 会議室(JR新長田駅・西南すく。東急プラザ3階) ◎資料代700円(学生無料) ◎講演Ⅱ上脇博之さん(神戸学院大学法学部教授) ◎主催Ⅱ市民と野党の長田共同アクション(構成団体・長

田九条の会、憲法を生かす会・長田、戦争させない長田の会、日本共産党(長田)、新社会党(長田)、れいわ新選組長田応援隊) 078・631・2106

新社会党市民運動委員長で夏の参議院の民主党比例代表予定候補である「かい正康」さんが、神戸市の北須磨団地の加納さん宅に来られたので、有志が激励に駆けつけた。彼の名刺には、「生きづらい社会を変えよう」とあった。その通りだが、今生きづらいのは日本だけではない。トランプ大統領の無茶な高関税と法外な外交政策で、世界中がインフレや弱肉強食の領土危機にさらされている。これに中国が加わり、台湾や日本の尖閣諸島や南沙海が重圧を受けている。トランプ氏は突拍子もない大統領とみられがちだが、アメリカの哲学はプラグマチズム(実用主義)が主流で、トランプが多用するディール(取引)はルーズベルト大統領のニューディールと同じ意味であり、ナショナリズムの性格を強くもっている。

覆さなければ、ガザも含めて世界に恒久平和は来ない。また、それは平和だけでなく、高関税によるインフレが遠慮なく世界を覆うので、日本だけの一国平和や経済の安定的成長はない。とくに日本は食料自給率が38%と悪く、多くの資源を円安で輸入している。そのため日本は、世界的インフレの影響を受けやすい。そこで日本は、世界の平和と経済の安定を配慮しながら、自国の政策を創る必要がある。

競争力をカバーし、円ドルは2011年10月が75円台と今の半分ほどの円高で、安い輸入資源と国内では物価も安かった。ところが人手不足と人材確保のため、24年は20歳代の大卒所定内給与は10%増えた。だが、40歳代は3.5%程度増えただけで、中高年の生活を無視した企業の自衛費上げである。これは労働者の存在価値が問われる。しかもトランプ大統領の高関税政策は、世界的インフレと不況をもたらす。いわゆるス

税制改正の要求はよいが、非正規のことは、まず同一労働同一賃金が優先事項で、この税制改正案は低給者が少額で、高給者が高額である。しかも防衛庁の増額がトップである25年度予算を丸呑みして、予算の分捕り合戦をするのはよくない。さらに、埼玉八潮市のような道路陥没事故は全国的に起きている可能性があり、財政需要はさらに高まる。つまり、今の若者も間もなく直面する問題であるから、シニア対シニアの対立ではなく野党が優先順位を話し合って決めてもらいたい。

最後に、1003万円の壁。対策は高収入層優遇で、中間層以下はインフレ下では救われない。しかも賃金労働者の労働組合が、賃上げの不足を税制改革で取りもどすというのには、労働組合の本質と大義に反する。そこで、オイルショックによる大不況と物

価高騰(スタグフレーション)の下で532万人がストに参加し、2万8981円を獲得した74春闘の歴史に学んでもらいたい。一方で、欧米労働組合のストライキ損失日数を比較すると、米国の労働損失日数が21年で約150万日、英・独が約20万日だが、日本は1388日であった。闘えば日本の労働組合も獲れるが、闘わなければ獲れない。それが春闘の教訓である。

柳田勘次(憲法を生かす須磨区の会世話人) 過去2回続けてオプザ

労働組合の奮起に期待する 平和と生活の向上をめざそう

以上を前提にして我が国の労働組合運動をみると、今のままでは形は残っても労働組合の本質から外れる。労働組合は賃金労働者の組織だから、賃金を上げて生活を改善することを目的にしている。だが、今の日本の平均賃金はG7のなかでイタリアと並んで最低である。しかし、国内の24年賃金闘争は失われた30年で最高だ、と喜ぶ労組幹部もいた。だが、24年度の実質賃金は、マイナスが3年連続して24年もマイナス0.2%だった。日本は低賃金とゼロ金利と低い国内投資で、国際

タグフレーションだが、日本の財政赤字は1200兆円で、金利を1%上げると3年後の利払いが3.7兆円増える。政府は利払いで予算が組めなくなり、企業は利益が吹き飛ぶので、インフレ対策で金利を上げられない。アメリカが不況で金利を下げて、日本は金利をあまり上げられないので、円安とインフレは解消しないのが、今の厳しい現実だ。

その結果として財政赤字が累増し、賃上げができない。しかも税制を改正して「103万円の壁」を破って手取りを増やすという。

先の実言は、日本被団協が昨年ノーベル平和賞を受賞したことを祝福す

過去2回続けてオプザ

増税は許されない。(中)

福島原発事故から14年

脱原発ひょうごネットワークが集会

福島原発事故から14年を迎える中、政府は2月の閣議で国のエネルギー政策の指針である第7次エネルギー基本計画を決定し、再生可能エネルギーとともに原発を最大限活用するとして原発回帰へと政策を大転換した。



昨年7月に結成された脱原発ひょうごネットワークが呼びかけた集会には120人が参加してデモ行進も行った＝3月9日、神戸市中央区

5・3兵庫憲法集会と 5・3憲法を活かす1万人意見 広告運動を呼びかけ

総がかり
行動兵庫

**被爆80年・戦後80年
憲法はあなたの命と未来のサポーター**

戦争させない、9条壊すな！
5・3兵庫憲法集会

憲法を壊すな！1万人意見広告運動・兵庫

5月3日(土) 13:00～14:00
神戸・みなとのもり公園
メインスピーカー 畠山澄子さん
※集会後デモ行進

「被爆80年・戦後80年憲法はあなたの命と未来のサポーター」のスローガンのもと、戦争させない、9条壊すな！総がかり行動兵庫実行委員会が、今年も「戦争させない、9条壊すな！兵庫憲法集会」を憲法記念日の

5月3日、神戸市中央区のみなのもり公園で「サンデーモーニング」に出演している畠山澄子さん(ピースポルト)をメインスピーカーに招いて1万人規模を目標に開くことを決め、参加の呼びかけを行っている。

こうした中、脱原発ひょうごネットワークの主催で、「原発事故はいのち・生活・生業を奪う」苦難の中を生き抜く被災者とともに「」を掲げた集いが3月9日、神戸市内で開かれた。同ネットワークは、脱原発運動に取り

組む県内の9つの市民団体が構成され、昨年7月に結成された。集いには約1200人が参加。まず、元裁判官の樋口英明さんが「地震と原発―私が原発をとめた理由―」のテーマで講演。樋口さんは、福井地裁の裁判長として、2014年5月に大飯原発3、4号機の運転差し止め判決、2015年4月には高浜原発3、4号機の運転差し止めの仮処分決定を出した人だ。樋口さんは、「一般の人々は原発問題を難しいという思いこみや先入観を持っているが、一度事故が起きたら、原発は人が管理し続けなければ、被害は想像を絶するほど大きくなる」と原電の本質だ

5月3日、神戸市中央区のみなのもり公園で「サンデーモーニング」に出演している畠山澄子さん(ピースポルト)をメインスピーカーに招いて1万人規模を目標に開くことを決め、参加の呼びかけを行っている。

と指摘。「福島原発事故は一度の事故によって巨大企業の100年分の利益が飛んだ。世界一の地震大国にもかかわらず原発の耐震性もなく、テロへの危機感もない」と、

加古川でも「14年のつどい」

脱原発はりまアクション

3月11日で東京電力福島原発事故から14年だが、脱原発はりまアクションは3月2日、加古川総合庁舎で「14年のつどい」を開いた。2012年3月から始めた「つどい」は、毎年3月11日前後に開催してきたので、今年で14回目となる。

今年の一つの「つどい」は、原発事故避難者のお話から避難生活の実態を聞くという企画にし、避難者10人のことを描いた映画「決断」の上映とあわせ

て福島からの2人の避難者のお話を聞いた。映画と2人の避難者のお話を聞いた。



今年で14回目となる集いでは映画「決断」の上映と2人の避難者のお話があった＝3月2日、加古川市

日本では原発は絶対に許されないと述べた。続いて福島原発事故避難者の菅野みずえさんが「今はわたしのこと、やがてはあなたのこと」のテーマで、避難にあたる

の苦勞を話し、国の政策を非難した。集い終了後、参加者は元町までデモ行進を行い、市民に脱原発をアピールした。(中村)

斎藤知事の辞職求める

西宮で市民集会開く

斎藤知事の辞職を求める西宮集会が3月1日、100人を超える市民が参加して西宮市内で開かれた。

集会では、パワハラ等一連の疑惑に対する情報公開請求の取り組みや阪神・オリックスの優勝パレードに関わるキックバック疑惑などを中心にオンライン関係者から活動報告を受け、改めて斎藤知事の辞任を求める取り組みを強めていくことが強調された。

このほか、SNSによるデマの拡散・誹謗中傷問題やN党・立花の「2馬力選挙」やメルチャ買取事件などの選挙違反に直ちに就労先に対して申し入れを行い、団体交渉を3回行った。交渉では経営側が主張する解雇理由に対して私たちは逐一反論を行ったが、「見解の相違である」とする相手方の姿勢を変えさせることはできず、交渉決裂のまま争議を収束させることとなった。

**戦争させない 9条壊すな！
5・3兵庫憲法集会**

- 5月3日(土) 13:00～14:00
- 神戸・みなとのもり公園
- メインスピーカー 畠山澄子さん

※集会後デモ行進

《郵便振替》は、口座名称・総がかり行動兵庫実行委員会、口座番号：009950・1・275



100人を超える市民が参加して県政に民主主義を取り戻そうと誓い合った＝3月1日、西宮市

昨年3月の西播磨県民局長による内部告発に端を発した知事問題について、「おねだり」リスト、県職員を困惑させたパワハラ疑惑などが時系列で報告された。その中で「文書問題」や「第三者委員会」、「情報漏洩」に

ユニオン運動の未来は若者がつくる

地域ユニオンの活動の中で課題とされているものとして、組合員が争議解決後、定着しない」ということが多い。確かにその通りではあるが、例外とも言える事例を紹介してみたい。

一昨年6月、就労先の教育施設を3月末で雇止めになったとの相談を30代の労働者Kさんから受けた。姫路ユニオンは直ちに就労先に対して申し入れを行い、団体交渉を3回行った。交渉では経営側が主張する解雇理由に対して私たちは逐一反論を行ったが、「見解の相違である」とする相手方の姿勢を変えさせることはできず、交渉決裂のまま争議を収束させることとなった。

このほか、SNSによるデマの拡散・誹謗中傷問題やN党・立花の「2馬力選挙」やメルチャ買取事件などの選挙違反に直ちに就労先に対して申し入れを行い、団体交渉を3回行った。交渉では経営側が主張する解雇理由に対して私たちは逐一反論を行ったが、「見解の相違である」とする相手方の姿勢を変えさせることはできず、交渉決裂のまま争議を収束させることとなった。

では、ひょうごユニオンからの提起を受け「今後のユニオン活動のために今なにをなすべきなのか」といったテーマで議論した際、いつも彼は「財政的に無理をしても専従者を配置し、その人を中心に組織拡大にチャレンジすべき」「青年・女性組合員の交流会を行うことで、組織拡大の展望を見出すことができないか」との建設的な意見を述べてくれる。

ひょうごユニオンでは、青年・女性の交流会について各ユニオンで人選を行い、実現に向けた準備を行っている。若い組合員の発想でトラブルを独りで抱えこみ困っている未組織労働者を一人でも多く仲間として迎え入れることができるよう、宣伝の仕方について意見を募っていき

交流会開催の次の段階として、経験を交流し合った上で、今後は労働相談に関わるようスキルを向上させることを目指したい、と思う。ベテラン組合員は青年・女性が生き生きと交流できるよう裏方として運営に協力する。……そんなことを考えながら運動の強化を望んでいる。



おんなの目

私は2022年6月にガンが見つかった。70歳になり、かかりつけ医から勧められ6年振りに検診を受けた。最初のCT検査で引っかかり、その後いろいろな検査を受け、6月中旬にステージ3のガンと告知された。全く自覚症状がなかった。腹部に引っばいガン細胞を育てていたようだ。(笑)

7月中旬に婦人科医と外科医で10時間の手術。体力があったお陰で長時間に耐えられて、4つの臓器とともにガン組織を全部取り除いてもらった。術後はかなり辛かったが、命が助かったことに感謝。4〜6週間おきの検診は続いているが、今、私ガンのはラッキーが2つあったから。検診を受けたこととガンがどの臓器にも浸潤していなかったことだ。もし検診を受けていなかったら手遅れだった。

ガンになるまでは病院へ行くことなどほとんどなかった。退職してから払う国民健康保険料が高いなと思っていたぐらいで、まして「高額療養費」なんて気にしていなかった。ところが今は、がん治療の薬代として毎回高額療養費の限度額1万8千円(区分一般を調剤薬局で払っている。大変だが、毎回薬

の元値30万〜40万円(1錠約8千円超)の表示を見ると感謝しかない。もしこの制度がなかったら、私は医療費2割負担で毎回6万〜8万円の支払いになる。

さらに、病院の窓口は別なので検査がある時は1万円前後かかる。一旦支払い、3ヶ月後に合算された超過分は口座へ振り込まれるが、病院へ行くたびに2人に1人とされる時代。「3人に1人は死亡する」と言われている。でも、私もまさか自分がその1人になることも夢にも思っていなかった。ガンに限らず、誰にもこれから先の病気のことなどわからない。誰にも可能性がある。

「高額療養費制度」は命綱

「ガンは2人に1人」と言われる時代。「3人に1人は死亡する」と言われている。でも、私もまさか自分がその1人になることも夢にも思っていなかった。ガンに限らず、誰にもこれから先の病気のことなどわからない。誰にも可能性がある。

くときはいつも3万円持参が必要。入院費の限度額は5万7600円。3回入院したがとても助かった。これ以上限度額を引き上げられたら年金暮らしの私の生活はえらいことになる。

この原稿がみなさんの目に触れるときには「高額療養費制度」の見直しが行われていると信じたいが、もし限度額が引き上げられていたら、来年から私が払う薬代は2万8千円、入院費は6万9900円に。現役労働者も低所得者もかなりの引き上げで大変なことになる。

「ガンは2人に1人」と言われる時代。「3人に1人は死亡する」と言われている。でも、私もまさか自分がその1人になることも夢にも思っていなかった。ガンに限らず、誰にもこれから先の病気のことなどわからない。誰にも可能性がある。

『労働者・市民とスクラム組んで』

新社会党芦屋総支部編発行／頒価1000円

今年、芦屋で本格的な党づくりを目指して50年の節目の年だ。それをひとつの契機に小冊子をつくることを決めた。近日完成予定(A4判/100頁を予定)。激動の半世紀を振り返り、その総括運動の中から、これからの党づくりを考えていく際の素材として、この小冊子がその一助となれば幸いである。

「二期・護憲社会党時代」「三期・新社会党時代」と3時代区分から成り、その時々主な取り組みについて、主にその中心を担った党員が執筆・報告する内容となっている。芦屋総支部の党員の約半数が何らかの形で編集に関与して、まさに共同作業の産物だと見える。



新社会党芦屋総支部の50年(副題)

と、1970年代は党の土台づくりで、続く80年代は、主として闘う労働者に寄り添いながらの地域への広がり追求、90年代は党内闘争の激化と自前の党づくりの開始の時代で、2000年代はそれまでの経験を踏まえ、さまざまな大衆運動を通じての党の影響力の拡大を追求した時代であった。

この50年間は、労働運動や社会主義運動が壊滅的と言ってもよいくらい苦しい時代であったと言えるが、そのような状況下、芦屋で

「岡崎ひろみ選挙」が闘われる中、右派の身勝手な策動もあって激動の嵐が吹き荒れ、日本社会党から護憲社会党、そして新社会党へと展開していく混乱期であったが、彼女たちは党と労働者・労働組合を繋ぐ重要な役割を果たし、党組織の土台づくりの大きな力となった。改めて敬意を表したい。

最後に、党結成50周年を契機に、これまで大衆と共に歩んできた歴史を振り返り、芦屋のみならず県下の党組織で意思統一を深め、まずは尼崎市議選に勝利し、続く参院選で新社会党籍を持つ国会議員を作ろう!

(新社会党芦屋総支部委員長 大野克美)

※問い合わせ・申し込みは党芦屋総支部まで。電話/FAX 0797・32・4095

ファーストキス 1ST KISS

硯。『すずり かけ』と読むのね。「何も言わずに読んでもらったのは初めてだよ。硯(松村北斗)と結婚して、カンナ(松たか子)は硯カナンになった。

あれから15年。好き同士で結婚したはずなのに、今では些細なことで言い争い、今朝も口論をしながら駆は家を出、出勤し

ていった。そして、駅で電車が轢かれて亡くなった。あれから半年、カンナは第2の人生を歩もうとしていた時、車で首都高のある場所を通ると過去にタイムスリップするのを知った。そして、そこでカンナは15年前の20代の駆と再会する。再会して、やはり駆を好きであったことに気づくが、

このままでは、15年後に彼が死んでしまうことになる。カンナは、どうしたら駆を救うことができるのかを考え始める。しかし、どんなに方策を練

っても未来は変わらず、それならと、カンナは、彼の周囲に時姿を見せる20代の自分自身と彼を結婚させないようにしようと思いつく。

そのうちに、駆は15年後のカンナに恋心を持ち始める。カンナは事情を打ち明けるが、駆はもう、カンナに持ち始めた恋心を止めることができなくなっていた。駆が言う。

「やり直せるなら別の人生ではなく、たとえ死ぬ運命であったとしてもカンナとの15年間の人生をやり直したい」と。

ひと昔前なら、こんな物語は単なるSFラブロマンスでしかないと思っ



た。私ができるこの映画を観ようと思ったかについてだが、先日カラオケを聞いていると、リスナーから『ファーストキス』を聴いて、映画館の中で号泣した」というコメントがあった。私は、今20年も前にリリースしたという鈴木愛里の「ファーストキス」という歌に感銘を受けた。運命を感じたのだ。

ところで運命って何でしょうね。運命と思えば運命だし、運命と思わなければ運命でないのでしょうか。駆とカンナの運命はどうでしょうか。(容)

シネマランド

15年後の未来は変えられるか

だから、一般相対性原理さえ理解できない私が理解できないのは当然だ。しかし、宇宙の果てに存在するもの同士が瞬時に反応し合うと聞けば、光より速いものはないとしたアインシュタインを超えたアインシュタインを超えることになる。日進月

監督 塚原あゆ子/2025年/日本/124分